

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
200	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The impact of screening, brief intervention, and referral for treatment on emergency department patients' alcohol use.          救急治療部のアルコール摂取患者における早期介入のスクリーニングの影響</p>	
執筆者	
Academic ED SBIRT Research Collaborative	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Emerg Med. 2007 Dec;50(6):699-710, 710.e1-6. Epub 2007 Sep	
キーワード	
救急治療部 (ED)、早期介入アプローチ (SBIRT)、飲酒、音声自動システム、3ヶ月	
要旨	
<p>目的：          救急治療部 (ED) における飲酒患者の処置計画の照会と、早期介入アプローチ (SBIRT) について評価する事。</p> <p>方法：          National Institute of Alcohol Abuse and Alcoholism(アルコール依存、アルコール乱用に関する国立機関)で低リスクガイドラインを超える飲酒量の患者を 14 箇所から 2004 年 4 月から 8 月に集めた。比較対象グループとしてコントロール群と対照群が各々の場所から選ばれた。コントロール群は配布資料を受けた。一方、介入グループは配布資料と短期的な介入、不適切な飲酒を減らすための問診 (Brief Negotiated Interview)を受けた。          調査結果は電話で音声自動システムにより 3ヶ月後に追跡調査が行われた。</p> <p>結果：          7751 人を選別し 2051 人 (26%) がアルコール依存とアルコール乱用について国立研究所で設定された低リスクガイドラインの量を上回っており、1132 人 (55%) が適切な対象とされ、登録された (コントロール群 581 人 介入群 551 人)。このうち、699 人 (62%) が音声自動システムを使用した 3ヶ月の調査を終えた。追跡の時点で Brief Negotiated Interview を受けた群はコントロール群に比較して 1 週間で 3.25 杯飲酒が減り (coefficient [B] -3.25; 95% confidence interval [CI] -5.76 to -0.75)、Brief Negotiated Interview を受けた群の中ではコントロール群より 3/4 最大で飲酒量が減った (B -0.72; 95% CI -1.42 to -0.02)。アルコール依存スクリーニング検査 (CAGE) 2 以上の危険危険者は CAGE2 以下の者より Brief Negotiated Interview は有効であった。3ヶ月の追跡調査後、介入グループの中の CAGE 2 以下の 37.2%のグループは、コントロール群 18.6 %と比較し、アルコール依存とアルコール乱用者は低リスクの上限飲酒量を超えなかった。</p> <p>まとめ：          救急治療部 (ED) における 3ヶ月の早期介入アプローチ (SBIRT) は不健康な飲酒を減少させる事が出来るとわかった。</p>	